



# 私のネクストステージ

## —退職者への質問状— Vol.42

### 自治体の養成講座で見つけた 地域課題の解決にもつながる 生きがいと仕事



元会社員 **高橋 武男さん (71歳) 2009年定年退職**

【たかはし・たけお】1949年、静岡県生まれ、名古屋市育ち。愛知工業大学建築学科を卒業後、建設関係の会社に勤務。定年退職後、「もくもく楽舎」を妻と2人で立上げ、工作・木工教室活動を開始。

—定年退職後のことについて、高橋さんは何歳の時から考えられていたのですか。

57歳頃からです。定年後は何をしようかと新聞や広報紙などいろいろな情報を探していたところ見つけたのが、「インタープリター養成講座の受講者を募集します!」という募集案内でした。

愛・地球博記念公園内にある愛知県の環境学習施設が主催する講座で、その目的は子どもたちに自然体験をしてもらうことです。全6日間の講座を修了すると「インタープリター」と呼ばれる森の案内人の資格が与えられると書いてあって、おもしろそうだなと。それでさっそく申し込んで、修了直後から森の案内人として活動を開始しました。

同じ頃、瀬戸市の子育て支援施設で開催された木工ボランティア養成講座にも参加したんです。子どもたちを対象に、木材を使った工作を教えるボランティアなんですけど、こちらも、講座修了後からボランティアとして活動を始めました。

—定年前から始めた活動を通じて、定年後にやりたいことは見つかったのですか。

森の案内人として、また木工ボランティアとして活動する中で、子どもたちが自然の中で眼を輝かせる姿や、真剣に物を作る姿、作品を完成させた時の嬉しそうな姿を目の当たりにし、「子どもたちと接する仕事をしよう!」と決めました。

—実際に定年を迎え、どうされましたか。

まずは、定年退職してすぐ、瀬戸市主催の「せと・しごと塾」を受講しました。これは地域のニーズや課題をビジネスで解決したい人を対象とした講座で、創業に必要な知識やノウハウを学びました。

それをもとに、インテリア雑貨や家具の受注製作・販売と、自然のすばらしさや木工の楽しさを伝えていく「もくもく楽舎」を立上げました。

—学んだ直後から活動開始される実行力がすごいですね。「もくもく楽舎」では、どのような活動をされているのでしょうか。

枝や落ち葉を使って昆虫や動物などを作って楽しむ工作教室の開催、それから森の案内人としての知識を生かし公園や森の中で子どもたちの環境学習をサポートすることが、活動の柱となっています。その他、「童話の世界」「四季の風景」等をテーマにした作品の展示会、シニアや女性向けの木工教室も開いています。

工作・木工教室は昨年までの12年間で405回開催し、参加人数は延べ1万1415人に上ります。展示会はこれまで49回開催しています。ただし、昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、例年の半分程度の開催となりました。

—活動でこだわられていることは何ですか。

工作や展示品に使う材料は、すべて「剪定枝」を使用しています。剪定枝とは



工作教室には親子で参加してもらうこともある



捨てられるはずだった剪定枝を使って昆虫や動物の世界を創り出す



作品製作時の表情は真剣そのもの



森の案内人として地域の子どもたちに自然のすばらしさ、楽しさを伝えている



家具や玩具の受注製作・販売もしている



イメージ通りの犬が完成して大満足



ある小学生が毎年描いてくれた絵が宝物に

公園や街路樹、庭で剪定された枝のことですが、これらは通常、廃棄処分されているのが現状です。剪定枝を使うことで、ゴミを減らすと同時に、子どもたちに自然の物を生かして遊ぶ楽しさを教えることができます。そんなこともあって、市町村の環境学習施設や教育施設等から工作教室の依頼を受けることが多いです。

一方で、剪定枝を使うことには苦労もあります。というのも工作教室では事前に工作キットを準備するのですが、作品によつては30種類近くの部材が必要となります。参加者の人数分すべて同じ部材を剪定枝でそろえるのは結構大変です。

——もくもく楽舎では木工雑貨や家具の受注製作もされていますが、木工の技術はどこで身につけられたのですか。

独学です。現役時代は建設関係の会社で働いていたので、工事現場で職人さんの仕事を見て覚えました。剪定枝で作る昆虫や動物の木工作品は、図鑑を参考にしながら製作しています。

——やりがいを感じるの、どんな時ですか。

工作教室に参加してくれた子どもたちは、終了時に必ず御礼の言葉を掛けてくれます。その言葉を聞くと、やってよかったなと思いますね。ある男の子は小学1年生の時から6年間、毎年参加して、毎回自分で描いた絵をプレゼントしてくれました。その子が描いてくれた絵が、今では私の宝物です。

——今後やりたいことはありますか。

定年後、年3〜4回のペースで妻と旅行に出かけ、47都道府県を制覇しました。移動は自家用車で、いまは離島巡りをしています。いつか壱岐や対馬、奄美群島、伊豆諸島にも行ってみたいですね。

——お話をいただき、ありがとうございました。